

日本では膨大な瓦礫を処理する土地が見つからずに困っています。建物や家屋の膨大な瓦礫が発生していて、日本にはそれらを廃棄する場所がないのです。

飲料水の不足はありませんでしたか？

話し手

もちろん、あります。

聞き手

どこから飲料水を調達しましたか？

話し手

アチエでは我々は浄水装置を提供しました。水を浄化する装置です。被災者に使い方を教えました。現地では井戸がまだあるので、そこから水を汲んで浄化しました。それから政府も給水トラックを使って飲料水を提供しました。ケアも提供しました。

聞き手

災害以前の被災地における上水道の普及率はどの程度ですか？

話し手

こちらではデータを持っていないのでわかりません。

聞き手

井戸水を使っていたのはいつですか？災害が発生する前にも日常生活で使っていましたか。

話し手

たくさん使用していました。井戸もありますが政府の水道管からも水を得ています。

聞き手

水道水の割合はどの程度ですか？

話し手

アチエですか？

聞き手

ええ、50%？

話し手

50%以上だと思います。

聞き手

水道水が、ですか？本当に？

話し手

40%～50%くらいかもしれません。

聞き手

水道管は津波の被害を受けましたか？

話し手

はい、水道管は損傷しましたが、修繕しました。

聞き手

修繕した？

話し手

はい、先ほどお話しした通り、被害を受けたのは全地域ではなく、沿岸部だけでした。

聞き手

下水道設備も被害を受けましたか？

話し手

はい、でも大きな川がありますので、海へと、都市や村々からあらゆる物が直接川に流されました。

聞き手

避難所の消毒はどのように行いましたか？何か消毒を行いましたか？

話し手

それは政府が行いました。

聞き手

政府の仕事ですね、わかりました。

話し手

政府とそれから NGO も…。

聞き手

遺体はどのように扱いましたか？埋葬はだれが行いましたか？

話し手

地元のコミュニティです。

聞き手

地元のコミュニティですね。方法は、穴を掘りましたか？一人ずつ、それとも集団ですか？

話し手

集団です。

聞き手

集団で？本当ですか？遺体は多数ありましたか？

話し手

はい。

聞き手

宗教上、それは問題ありませんでしたか？

話し手

はい、こうした状況ですから、みな納得しました。

聞き手

わかりました。損傷した遺体の身元はどのように確認しましたか？それとも確認はできませんでしたか？

話し手

ケア・チームがとても精力的に活動しました。それから軍隊、コミュニティ、医師たちも協力しました。

聞き手

しかし、津波の影響で遺体は損傷したと思うのですが？

話し手

ええ、損傷がひどい状態でした。

聞き手

そうなると身元確認も難しいのでは？

話し手

ええ、もちろんです。

聞き手

日本では歯型を使いましたが、こちらではどうですか？

話し手

ええ、こちらにも歯形はあります。でも津波のときはどうだったかわかりません。とにかく遺体の数が多いので。

聞き手

津波の後、感染症の増大はありましたか？例えば、破傷風や肺炎、インフルエンザ、下痢とか。

話し手

ええ、もちろんあります。はい。

聞き手

ケアには病院との連携システムがありますか？

話し手

はい。病院ではありませんが、地区のヘルスポスト（保健所）と協力しています。

聞き手

ヘルスポストは医療行為を提供していますか？

話し手

はい。ヘルスポストには医師がいますので。助産師に、医師に、歯科医に…。

聞き手

薬の処方箋も出しますか？でもアチェでは、ヘルスポストの多くは津波の被害を受けているのでは？

話し手

そうです。でも修繕したり建て直したりしました。

聞き手

災害時に患者を搬送するシステムは何かありますか？患者をヘルスポストに搬送する手立てです。日本には救急車があります。

話し手

こちらにも救急車があります。津波後、救急車が一台もなくなってしまいましたが、数日後、様々な支援が軍隊から届き、その中に救急車も含まれていました。

聞き手

患者の中に透析が必要な方はいましたか？

話し手

詳しいことはわかりません。私は実際に救援センターで作業していないので。

聞き手

公衆衛生評価のためにどのような評価ツールを使いましたか？患者が何人ぐらいいるとか、病気にかかっている被災者の数とか。

話し手

保健局がそうしたデータを把握しています。我々はフォスコに行くだけです。情報はすべてフォスコが一元管理しています。どのような情報が必要ですか？

聞き手

フォスコが居住者に関する情報の一覧を持っているのですね。

話し手

そうです。すべての情報がそこに集まります。

聞き手

ということは、フォスコが居住者の健康状態を評価するのですか？

話し手

はい、情報は、最新の情報は一カ所に集約されます。政府の庁舎をご存知ですよ。何か見たい情報があれば、保健局の事務所に行けば保健に関する情報が得られます。

インフラに関してはそれぞれの分野の事務所に行けば、インフラに関する情報を集めることができます。もちろん、津波のときの情報はそれほど正確ではありませんが。

聞き手

避難所の被災者の健康調査はだれが行ったのですか？

話し手

政府です。

聞き手

すると、政府が各避難所に職員を派遣したのですか？

話し手

はい。例えば軍隊などです。軍隊は政府の管轄下にあるので。

聞き手

軍隊には保健の専門家がいますか？

話し手

はい。NGO に関しては我々がやります。

聞き手

何らかの書式、健康評価の書式はありますか？

話し手

はい。

聞き手

これを実際に取り扱っていたのはだれですか？ケアのスタッフですか？

話し手

ケア・チームです。

聞き手

世界中のケア・スタッフがこのブックを持っているのですか？

話し手

ケア・スタッフ全員ではありませんが、少なくとも一部の事務局にはあります。それから緊急チームも持っています。

聞き手

刊行されてはいないのですか？

話し手

いいえ。これはポケットブックと呼ばれています。どこかへ行くときにポケットに差し込んでいけるからです。ほかにもツールキットがあります。

聞き手

ツールキットはソフトウェアですか？ケア・スタッフがこのソフトウェアを開発したのですか？

話し手

ええ。ケア・インターナショナルが開発しました。

聞き手

いつ発行されましたか？

話し手

もうすでに改訂されています。これが 2008 年版、こちらが 2009 年版です。

聞き手

アチェに建てた仮設住宅についてお伺いしてよろしいですか？あの仮設住宅はだれが設計しましたか？

話し手

専門家です。

聞き手

建築家？

話し手

ええ。技術者兼建築家です。彼は政府と緊密に協力しています。

聞き手

仮設住宅の平面図か仕様書はありますか？

話し手

ファイルにあります。すべてのドキュメントがこの事務局に保管されているわけではありません。倉庫を借りています。

聞き手

電気、水道、下水道など基本的なインフラは整っているのでしょうか？それから入居に優先順位はありますか？例えば、女性、子供を優先するといったような、優先順位です。

話し手

ないと思います。

聞き手

わかりました。仮設住宅の居住者は金銭的に何を負担しますか？家賃ですか、それとも電気代ですか？

話し手

電気代だけです。電気は政府が配電しています。

聞き手

電気代を支払っているのですか？

話し手

ええ。

聞き手

家賃の請求はありますか？

話し手

いいえ。

聞き手

無償ですか。わかりました。仮設住宅に台所はついていますか？すると備わっているのは…。

話し手

台所、トイレ、食堂です。

聞き手

食堂も？大きな家ですね。

話し手

ええ、リビング兼ゲストルーム、それと二つの部屋。

聞き手

わかりました。では自分たちで調理できるのですね？

話し手

はい。

聞き手

日用品とか食料品はどうやって調達するのですか。そこには…。

話し手

働いている人もいます。

聞き手

働いている？ということは現金収入があるのですか？

話し手

現金収入とプロジェクトによる収入があります。それと政府の配給システムもあり、例えばパブリックキッチンに行けば食糧がもらえます。

聞き手

政府が仕事を斡旋しているのですか？

話し手

いいえ、彼らは政府の職員として勤務しています。

聞き手

働いている人もいるということですね。しかし、日本では多くの方が津波の後、職を失いました。漁師の方々は津波のあと漁ができなくなったのです。

話し手

こちらの場合は食糧支援が政府からありました。またトルコなど海外の NGO から食糧の提供がありました。

聞き手

被災者の職業は主に何が多いですか。漁業に従事されていた方も多いですか？

話し手

漁師もいます。

聞き手

仕事は続けられていますか？

話し手

いいえ。だれも魚を食べたくないのです。

聞き手

なるほど、それで仕事を失ったのですね。

話し手

仕事を失いました。

聞き手

生活費はどう工面されていましたか？

話し手

何らかの援助活動に頼りました。実際、津波のあと数日後には、彼らは政府から援助を受けました。

聞き手

資金援助ですか？

話し手

いいえ、食糧です。公共の調理場があるので、そこで食べ物がもらえます。その後は例えば支援を提供したり、何かを売ったり、開発したり、パンの作り方を教えたり、といった生活支援関連の様々な活動を行っています。

聞き手

ということは NGO が仕事を斡旋したのですか？

話し手

はい、生活支援です。仕事ではありません。生活支援です。被災者の自立支援です。

聞き手

しかしそれは永続的な収入源ではありませんよね。あくまで一時的な仕事ということですね。

話し手

そうです。しばらくしてまた漁業に戻ります。

聞き手

わかりました。仮設住宅用の売店やシェルターもありましたか？

話し手

はい、ありました。

聞き手

では、日用品などは簡単に手に入ったのですね。

話し手

はい、店もありました。資金がある者は自分で店を開きました。小さな店ですが。

聞き手

正常な生活に戻るために、被災者にはどのようなニーズがありましたか？被災者には何かニーズがありましたか？

話し手

はい。状況が正常に戻ると、被災者は自力で正常に戻ります。すると援助も継続されず、最終的には打ち切られます。

聞き手

そうですね。なくなりますね。

話し手

ええ。でもアチエの場合は生活が正常に戻るまで援助は段階的に縮小されていくようです。

聞き手

先ほどあなた方のところには備蓄はないと伺いました。政府はどうですか？

話し手

政府はほとんどすべての地区に備蓄を用意しています。

聞き手

すべてのレベルでということですね。中央政府も地方政府も備蓄があると。

話し手

BNPB、国家災害庁には資金も潤沢にあります。

聞き手

BNPB（Badan Nasional Penanggulangan Bencana）を英語に直していただけますか？

話し手

National Disaster Response Organization（国家災害庁）です。

聞き手

中央政府と地域政府も災害対策計画を用意していますか？

話し手

はい、もちろん。

聞き手

各レベルごとに？

話し手

はい、地区レベルまであります。中央政府、州、そして地区です。現在、政府は非常に積極的に災害リスク対策を行っています。フローレス島には 26~27 あります。

聞き手

アチエの津波の際、外国政府やその他の機関は援助金や寄付金を提供しましたが、寄付金の管理はだれが行いましたか？

話し手

援助金はまず政府にいきます。その後、NGO と GO に配分されます。

聞き手

わかりました。すると NGO がどの避難所に提供するかを決めるのですか、それとも…。

話し手

状況によります。まずミーティングを開き…。

聞き手

先ほど ECB で月 1 回ミーティングが開催されるとおっしゃいました。緊急事態が発生したときは、どのくらいの頻度でミーティングを開きますか？

話し手

毎日です。

聞き手

被災地で毎日ですね。

話し手

はい、情報を更新しなければならないので。

聞き手

状況は毎日変わりますからね。

話し手

そうです。毎日です。それから 2 日、3 日、1 週間に 1 回となり、最終的には月 1 回となります。

聞き手

ECB（エマージェンシー・キャパシティ・ビルディング）は非常に良い組織だと思います。
11 月のワークショップでは何を話し合う予定ですか？

話し手

ECB については、経験を共有します。

聞き手

何の経験ですか？

話し手

いま我々が行っている活動と海外ではどんな活動を行っているかについてです。

以上

(資料2) 米国フロリダ州保健局によるプレゼンテーションテープ起こし原稿①

Day 1

9:00 am – 9:30 am

Emergency Management Preparedness

- **National Response Framework**
- **FL EM Structure**

Rhonda White (MBA, Chief, Bureau of Preparedness and Response, Florida Department of Health)

I'm going to talk about the operating environment that we have in this country and the state and the counties for emergency management for Florida and our counties. I'm going to talk about really six primary foundations for our emergency management philosophy and our organization.

Emergency Management Tenets

1. Emergency management is a cycle
2. Preparedness is a shared responsibility
3. Multiple hazards exist
4. All disasters are local
5. Response is focused on meeting the needs of the survivors
6. Multi-agency, multi-jurisdictional resources support emergency management

Emergency management for us is a cycle. It's an open-loop cycle that doesn't end with the beginning of a disaster or the ending of a disaster. It is a process that we do year-round and at the national level, at the state level, and at the local level. The cycle, for us, you'll hear sometimes emergency management professionals talk about mitigation, being able to mitigate the negative impacts, but of course, in public health, we also like to talk about prevention. That's our first part of our cycle for us is trying to prevent or eliminate negative consequences of a disaster by preparing with our – in our case – our healthcare partners, our citizens, and our other state, and local agencies.

Then, of course, when the prevention and mitigation efforts are not sufficient and the disaster strikes, we would go into response mode. During that point that's that initial place where you begin to push resources to the area of the disaster. Then our goal, of course, with emergency management is to get those individual communities back to their prior state as rapidly as possible.

Emergency Management Cycle



We prepare together so that our goals are aligned. Our National Preparedness Goal was updated in September. This is the sort of the guiding principle for us as a nation to prepare ourselves. You can see where it talks about the whole community preparedness approach. That's really sort of our context for that.

Preparedness Responsibilities

National Preparedness Goal

A secure and resilient Nation with the capabilities required across the whole community to prevent, protect against, mitigate, respond to, and recover from the threats and hazards that pose the greatest risk.

We have a lot of opportunities for disaster in Florida. We get to practice our response skills quite a bit, which is one reason I think that we have some systems that work well because we get to use them and try them. We use an all-hazards approach to preparedness which, means we prepare based on capabilities that might be needed to respond, and then use those capabilities for different events. You may not need all capabilities for all events, but they are prepared, ready to go. Then, based on the actual event, you would call up those resources that were appropriate for that particular response.



I'm just going to use this diagram to talk about the relationship between all the partners in both preparing and responding to just make a couple of key points on this diagram. We have a philosophy that says all disasters are local, which means to us that the disaster happens in somebody's community and that the rest of the system stands prepared to support that local response. We do know from the disasters of the last few years that even disasters that are not local in your community have far reaching impacts that kind of impacts your community.

The earthquake in Haiti impacted our South Florida hospital system. The Katrina event impacted states that received the people that were evacuating. Even though, the disasters are local the impacts can be broader of the individual disasters. There is some conversation in the emergency management world about what does that mean in that new way to think about disasters.

We've adopted that 'all disasters are local' philosophy and our first job is to prepare inside of the red circle, the community, and the local public and private partners in that community to be able to take care of whatever might happen for them. They respond everyday to lots of smaller scale emergencies: medical emergencies, car wrecks, hazardous material spills. That response is ongoing every day. They have a capacity to respond up to a certain level based on the resources that they might have in their community. Each community is different and so their capacity is different of what they can handle on their own and when they might ask for help.

The first – our philosophy is the closest appropriate responder. We want the people that are close to the event to respond and to bring in people from the next circle and the next circle as the event is larger. There are some advantages to the closest appropriate responder and its time and cost. You need somebody there quickly. You need to get them from your surrounding communities and your partners in that surrounding area. Then, as the event continues out, you can get other help.

If you look at the diagram, from the top part of the diagram is meant to represent the preparedness phase of the relationship between these levels. I don't know if this diagram works. We're trying it out on you. This is an experiment. We have the national response goal is this circle. Outer circle is the federal response. We have the national response goal, which we just talked about – preparedness goal sets the standard for that federal preparedness activity.

In Florida, we're part of a region of states, eight states I believe in FEMA Region IV, who we partner with to have working relationships to share resources with those states. That's that interstate circle, which is the second circle in closer. Then, in Florida, the state response, which is the third circle, we have a State Emergency Response Team who is responsible for preparing the entire state and making sure that information is shared, plans are aligned.

The circle closest to the community that's impacted is their peers and their mutual aid with other agencies, both in their own geographic area

and maybe their neighboring area. I don't know if that makes sense. We're starting at the local community, then their neighbors, and then the state support, and then the multistate support, and then our federal support. That's really our approach.

What that means on the preparedness side is that we have to plan together so that what we're planning for at the state level aligns to the potential needs that the local folks may have. The key for us in the preparedness side is this integrated planning effort that we do.

